

学園内に咲くタンポポ

中学校・高校 大久保 雅弘先生



樟蔭の敷地内にはおよそ150種類の植物が生育しています。同定できていない種を加えると200種は超えるでしょう。記念館前のユリノキは有名ですが、今回は、あまり知られていなくて、少しめずらしい植物を紹介します。

高校化学教室の南側と中学運動場西端

に、白い花を咲かせるシロバナタンポポがあわせて30株ほど生育しています。タンポポの仲間、敷地内では、多い順にセイヨウタンポポ、アカミタンポポ、シロバナタンポポ、カンサイタンポポの4種あり、セイヨウとアカミは外来種、シロバナとカンサイは在来種です。カンサイタンポポが種子をつくるために

おおくぼまさひろ
● 中学校・高校 教諭
生物科・地学科 担当
東大阪市生まれ。1988年より樟蔭中学校・高等学校で勤務。フィールド部の顧問も務める。



は他の株の花粉が受粉する必要があり、1株だけでは繁殖は困難です。他の3種は受粉なしで種子形成し、1株だけでも繁殖できます。外来種は年中葉を展開し種子形成しますが、夏前に発芽した種子は暑さを持ち切ることはできません。シロバナタンポポ(カンサイも)は、春に花を咲かせたあと地上部を枯らせ、暑さの盛りが過ぎると枯らしていた葉を展開し、夏前にできた種子も発芽します。葉が展開したまま冬を越し、春の開花を迎えます。タンポポより背の高い植物が繁殖する夏には日光が届きにくいので葉を枯らして休憩、背の高い植物が消える頃、たっぷり注ぐ日光を利用するという生活をしています。シロバナタンポポの花は立派です。雑草に混じって抜かれないように保護しますので、来年の開花を楽しみにしてください。

くすのき
Kusunoki

167

2011
Autumn

発行日：2011年11月10日
発行：学校法人 樟蔭学園 学園広報室
〒577-8550 東大阪市東豊田4-2-26
TEL:06-6723-8152 E-mail: kono@osaka-shoin.ac.jp

学校法人 樟蔭学園



のぶね・ゆか ● 大阪市生まれ。樟蔭中学校・高等学校を経て、2010年に大阪樟蔭女子大学学芸学部食物栄養学科(現健康栄養学科)を卒業。同年職員として採用された。中学校・高校時代はソフトテニス部、大学では硬式テニスサークルに所属。

STAFF @ SHOIN 01

信根 佑香 さん

大阪樟蔭女子大学
修学支援課(小阪キャンパス)

相手の立場になって
相談に乗ることを心掛けています

「小阪キャンパスの修学支援課は、教務系の仕事を課長以下5人で担当しています。職場には大学で1年以上と2年以上だった先輩がいて、とても働きやすいです。私の担当は、授業に関して先生方と連絡を取り合うことや、教室の管理などですが、年度始めは学生たちの履修登録の相談にも乗り、年度末は成績の処理に追われます。卒業証明書の発行もしているため、修学支援課には卒業生もよく顔を見てくださいね」
昨年まで学生として通っていただけに、キャンパスは隅々まで熟知。学生時代に教わった先生方も多く、学生にも知っている顔がたくさんいるので助かっているといいます。
「どうしたら学生さんが情報を得やすいだろうかと、自分が学生だったころを参考に相手の立場になって考えるように心掛けています。私は学生時代に教職課程をとっていましたので、学科の専門授業との兼ね合いなく、科目を履修する上で学生が相談したい所がよく分かります」
お母さまも樟蔭の卒業生。佑香さん本人は覚えていないのですが、小学生のころから「私も樟蔭に行きたい」と話していたとか。学生時代は教員を目指していましたが、一方で樟蔭で働きたいという強い思いもあり、この職場を選んだといいます。
「学生さんには、キャンパスに来れば楽しいことや役に立つことがいっぱいあることを伝えたいですね」



学校法人 樟蔭学園

大阪樟蔭女子大学／大学院 大阪樟蔭女子大学短期大学部 樟蔭高等学校 樟蔭中学校 大阪樟蔭女子大学附属幼稚園



Kusunoki



FIC(ファッションインフォメーションセンター)

CONTENTS

● Feature Story — 神戸ファッション美術館とのコラボ、8年目の集大成を披露

「学館協働事業展 華やかに開催！」

1



はばたけ、知性。

● SHOIN LABO — 「食品や添加物の正しい知識を知る」 打田 良樹先生

3

● NEWS — 「樟蔭ホームカミングデー2011が開催されました！」ほか

7

● Information — イベントのお知らせ

12

● CLUB NAVI — 中学校・高校 演劇部

13

● WingBEAT! — 「理科実験で、子どもたちを笑顔に！」 ●●●●さん

14

● FORUM — 皆様とのコミュニケーションスペース

15

● 平成22年度決算概要報告

17

● リレー★コラム 大久保 雅弘先生 & STAFF@SHOIN 信根 佑香さん

19

Feature Story

巻頭特集

8年目を迎えた大学と神戸ファッション美術館のコラボ
今夏、集大成の「学館協働事業展」が華やかに開催

大阪樟蔭女子大学被服学科では、2004年から神戸市の神戸ファッション美術館と協働して研究や展示を進めてきました。

今年7月から9月にかけて、8年間の集大成となる「学館協働事業展」が同美術館で華やかに開催され、研究成果として製作された18世紀～19世紀の「ローブ・ヴォラント」などの宮廷衣装や20世紀のデイ・ドレスなどの復元作品、ランバンのオートクチュールコレクションの素材調査研究などが展示されました。また、復元作品を製作する際に作成したトワール(実物の布地に裁断する前に木綿などの布で一度服の形に組み立てたもの)の試着イベントも実施。

学館協働事業は、18世紀フランスの宮廷衣装から現代にいたるファッション史の精華を集めた美術館の収蔵品を、学生が直接手にとって研究できる貴重な機会です。これまで、協働事業を中心となって進めてこられた被服学科の北尾和信教授と、学生として協働事業に参加した同学科4回生の●●●●●さんにお話をうかがいました。

「ものからひとへ」という方向性を先取り



被服学科

北尾 和信 教授

大学と美術館双方に大きなメリット

服飾研究者にとって神戸ファッション美術館の収蔵品は「宝庫」。フランス宮廷文化が華やかだったころのドレスからシャネルやクリスチャン・ディオールなど皆さんがご存じのブランドまで、収蔵品は約1万点を数えます。

この学館協働事業では、その貴重な収蔵品を教育研究用としてお借りして、学生たちの研究成果を美術館にフィードバックすることによって、美術館は、研究成果を活用し、来館者にも満足してもらえる…そんな効果が得られます。学生にとっては、とても恵まれた機会だと思います。

また、来館者には学生が復元したトワールを試着したり復元品に触れることができる、ドレスの 패턴を見ることができる、縫製の詳細を知ることができるといったメリットが生まれ、学生の研究成果が美術館の貴重な展示品と来館者の距離を近づけています。

美術館の学芸員の方にも「大学と美術館の力が合わさることで、1プラス(+)1が3にも4にもなっています」と評価していただいています。

衣服だけでなく髪型や化粧を含めトータルな形で研究に取り組む本学の「ものからひとへ」の姿勢が、美術館のベクトルと一致しており、これからも、学館協働事業のメリットを生かして、さまざまな角度からファッションに関わる研究に取り組んでいきたいと思っています。



美術館のロビーにて、樟蔭の伝統として受け継がれてきた、緑の袴姿も展示しました。

貴重な資料に触れられた時の喜びが自分の新しい発見に

被服学科アパレル専攻4回生 ●●●●●さん

協働事業展を通して、大きく成長

京都生まれのせいか、もともと友禅などの織物や服づくりに興味を持っていました。授業の一環で神戸ファッション美術館を訪れた際、以前に習って好きだった仕立てに定評のある“バレンシアガ”のドレスや、女優カトリーヌ・ドヌーブが着ていた“シャネル”のスーツなどの実物に出合えて感激し、この事業に興味を持ちました。この出会いがきっかけとなり、卒業論文で18世紀のドレス「ローブ・ア・ラ・フランセーズ」の復元の一環として生地の新織りに取り組んでいます。

実際の衣装を手にとって細かく分析し、糸を染色することから始め、当時の色彩の「花紋様」に織り上げています。今回の協働事業展では、その製作過程の一部を展示していただきました。また、学芸員の資格取得の授業の一環として、協働事業展の展示や試着コーナーを担当しました。来館者の方々に、今までに学んだ知識を活かして展示資料について説明するという有意義な経験もできましたが、専門的なことを分かりやすく説明することの難しさを感じました。また、復元したトワールを来館者が試着された際には、「お姫さま気分になれた」と大変喜んでいただきました。この協働事業に関わって、私たちの研究成果が美術館で活用されていることを実感し、協働事業でしか得られない貴重な経験ができたことで、私自身、大きく成長できたと思います。



学生が復元したドレスを試着した来館者



学館協働事業の一環として、「メイクアップ・アートの現在」を開催中！ 開催期間：12月25日(日)まで(神戸ファッション美術館)

今回は、神戸ファッション美術館が18～20世紀におけるメイクアップとヘアーの歴史を紹介する「美女たちのよそおい」と同時開催で行われ、化粧学専攻の教員であるタミー木村教授と、特殊メイクアップアーティストの江川悦子氏(本学 非常勤講師)による現代メイクアップの作品を展示します。併せて、化粧学専攻の研究成果も披露しますので、是非ご覧ください！詳細は、神戸ファッション美術館HPをご覧ください。URL : <http://www.fashionmuseum.or.jp/>

「楽しく継続して学ぼう」がモットー 食品や添加物の正しい知識を知る

打田 良樹 先生

大阪樟蔭女子大学
学芸学部健康栄養学科 教授
大学院人間科学研究科人間栄養学専攻 教授



温和な人柄から、学生や院生から「優しい先生」と慕われています。また、学科長を務める健康栄養学科では、難関とされる今年の管理栄養士国家試験の合格率が94%と大阪府内の大学でトップの成績を記録しました。

ゼミの学生たちとの記念写真などが飾られて、明るい雰囲気 of 打田良樹先生の研究室にお邪魔して、先生の専門分野や研究室の内容、教育方針などについて語っていただきました。

抗菌性ペプチドの研究に心血を注ぐ

新しい発見に興奮することも

打田先生の専門は人間をはじめとする生物の生体内で、さまざまな機能を発揮する「ペプチド」の研究です。アミノ酸が結合してできるタンパク質の中で分子量の小さなものを「ペプチド」といい、近年の健康ブームでよく話題にのびります。人間の体内では、消化酵素やホルモンとして重要な役割を担っています。

「以前は人間の体の遺伝子情報であるゲノムが解析されれば、人体のすべてが分かるかのようにいわれていました。しかし、実際にヒトゲノムがすべて解析された後も、生体の巧妙な調節によって、作り出されるタンパク質が微妙に異なることが分かってきました。ほとんど同じ構造を持ったタンパク質でも、アミノ酸が一つ入れ替わっただけで遺伝病になったりします。非常に興味深い研究分野だと思います」

打田先生の今の研究対象は、抗菌性を持つ物質。微生物、特に人間に悪いことをする菌に対して、その繁殖を抑制するペプチドを「抗菌活性ペプチド」といいます。

「もともとは動物の免疫細胞や微生物が作り出すペプチドのアミノ酸の配列を少しずつ変えて、抗菌活性の高いペプチドを合成するというものです。人間の体を構成するアミノ酸は基本的に20種類が知られています。例えば、体内にあるオリジナルの抗菌性ペプチドにグルタミン酸というアミノ酸が含まれているとすると、それをアスパラギン酸、あるいはリジン、グリシンといった別のアミノ酸に替えてみると、抗菌活性はどうなるのかといったことを研究しています。目標は従来の抗菌性ペプチドより、高い抗菌性を示すものを作って医薬品にすることですが、そんなに簡単にはいきません」

また、より基礎的な研究として、ペプチドを化学物質としてとらえ、その立体構造を明らかにすることにも興味をひかれているといいます。分子レベルの構造を調べられるNMRという特殊な装置などを使って研究し、学会などで積極的に論文を発表しています。「創薬につながるような研究は一朝一夕には実現できませんが、これまでに報告されていなかったような立体構造を持ったペプチドを発見することもあり、学問的な面白さがあります。もちろん、これも滅多に発見できることではないのですが、見つけた時には興奮しますね」

食品添加物の研究も重要な柱

誤解も多い世間の「常識」

研究室としては、食品添加物同士の相互作用の研究も進めています。相互作用といっても薬の副作用のような毒性に関する研究をしているわけではなく、より効果的な添加物の利用を目指す前向きな研究です。

「例えば、酸味料など調味料としての添加物もいろいろとあります



が、色をつける着色料としての添加物もあります。着色料は溶かしている溶媒の条件によっては色が変わってしまう場合があるので、調味料が変色を防ぐ緩衝材のような働きをすれば、安定した色が出せるということになります。そうした研究を学生さんにいただいているところです」

学生たちには科学的な物の考え方を学んでほしいといいます。

ある学生が赤色の合成着色料に興味を持って、調べてみたことがありました。その着色料については、厚生労働省が1日の摂取制限を課していますが、学生は着色料が含まれている金平糖の添加物を計量して、どれくらい金平糖を食べると制限量に達するかを計算したそうです。

「その結果は1日に金平糖を2〜3キログラムも食べないといけないというものでした。学生も『なんだ』と妙に納得していました。厚生労働省の基準というのは、それくらい厳しいのだと説明しました。他にも、ペットボトルのお茶には、酸化や変色防止のためにビタミンCが添加されているのですが、その量も学生が調べてみると、飲料メーカーによって多少の違いはあるものの、500ccぐらいで、1日のビタミン所要量を含んでいるようです。美容のために柑橘類を食べようとか気を使っている女性も多いと思いますが、ペットボトルのお茶で結構な量のビタミンCが摂取できるんですよ」

世の中には添加物について、誤解も多いといいます。「みんなは『毒物』は悪いもので、『栄養』は体にいいと思っていますが、例えば塩でも砂糖でも取りすぎれば毒ですし、金属のクロムや銅などは毒性が強調されることが多い物質ですが、人間は微量ですが摂取しないと病気になってしまいます」。打田先生は天然の添加物と合成の添加物についても少し誤解があると説明されました。

「天然の添加物は確かに昔から使われているので、安全性が高いという経験的な合理性はあります。しかし、長年食品添加物として使われてきた茜の根から取るアカネ色素に発がん性があることが分かり、7年前に使用禁止になりました。逆に合成の添加物は実験で安全性が確かめられないと許可されません。必ずしも『天然が安全』ということではないのです」

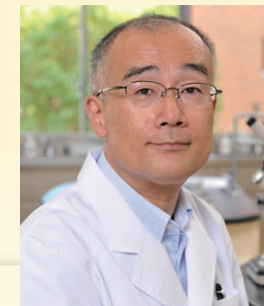
次世代を育てる学生に食品衛生の大切さを

実験でけがしないよう細心の注意も

打田先生が学生たちに望むのは「楽しく継続して学ぼう」ということです。また、観念的に考えるのではなく、実験で確かめられた結果を

うちだ・よしき

1982年、大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程応用薬学専攻修了。薬学博士。薬剤師。北陸大学助手を経て、1990年に大阪樟蔭女子大学専任講師。91年に同助教授、99年に同教授。2005年から大学院教授も兼任する。93年から1年間、米国・ケンタッキー大学客員研究員も務めたほか、現在は本学学芸学部健康栄養学科長を務める。

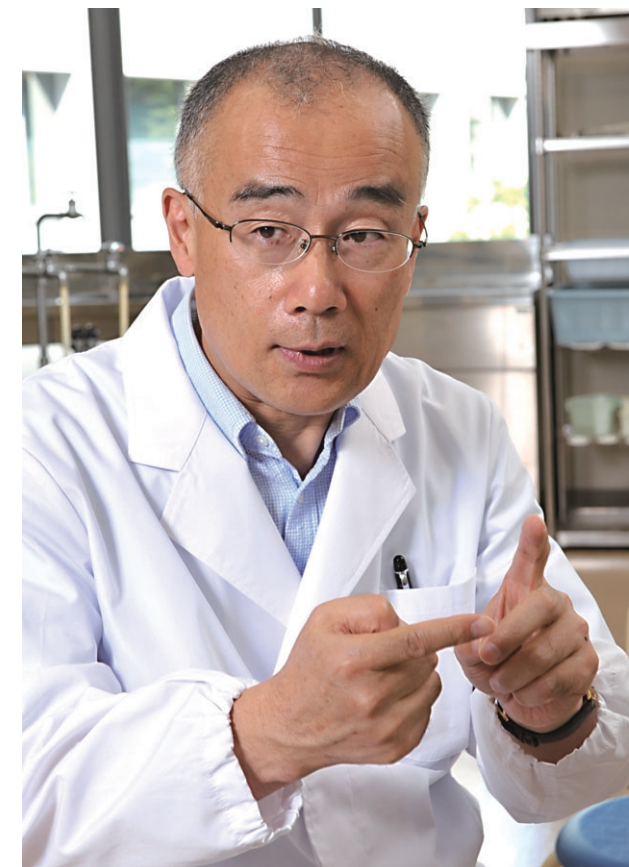


もって物事を理解してくださいとも強調されました。

「本学の多くの学生たちは将来、母親として次世代を育てるというかけがえのない経験をしましょう。その中で、子供たちの食の安全を守ることが大切になる。そのためにも、誤った情報を見分け、正しい知識を身につけてほしいと思います」

趣味は特になくといわれますが、学生たちとは食事を楽しんだりして、会話が弾みます。ただ、「ケーキに入っているほんの少しのお酒でも顔が赤くなる」というように、お酒はまったくの下戸だそうです。「お酒は全然ダメで、奈良漬でも酔ってしまうくらいです。学生のころ、実験で試薬を温アルコールで溶かすときに、気化したアルコールで酔ってしまいましたから。居酒屋さんなどで、お酒を飲んだ人の吐く息に含まれているアルコールが空気中に漂っているのを敏感に感じてしまうくらいで、アルコール感知は一種の特技かもしれません」

冗談を織り交ぜながら話す先生を中心に、写真撮影の時も打田研究室は、とてもいい雰囲気に包まれていました。



樟蔭ホームカミングデー2011が開催されました！

10年に一度の対象期にあたる卒業生の皆さんを学園へお招きするホームカミングデーが10月29日(土)、小阪キャンパスの大学祭「くすのき祭」と同時開催され、例年を大きく上回る約350名の卒業生やご家族が本学を訪れました。

卒業アルバムのスライドショー上映などオープニングイベントの後、立食形式で懇親会を開催。今年は、各校ともに退職された先生方に多数ご参加いただくことができたので、懇親会では先生方の紹介時に、卒業生から喜びの歓声や拍手などが上がりました。同窓生や恩師との久しぶりの再会を果たせた卒業生たちは、喜び合い近況報告や懐かしい昔話でおおいに盛り上がっていました。

「ハンカチ絞り染め」「テーブルコーディネート」「食事チェック&血管年齢測定」「メイクアップ・レッスン」など、参加者のための体験イベントも実施され、卒業生たちは学生時代に戻ったような和気あいあいとした雰囲気の中、さまざまなイベントを楽しみました。人数制限があるイベントでは、整理券を受け取るために受付開始前から並ぶ姿もあり、久しぶりに体験する母校のイベントに心を躍ら

せている様子が見られました。

キャンパスツアーには在学学生がサポート役として参加し、卒業生と現役学生が交流を深めるシーンもありました。卒業生たちは学生たちに、自分たちが通学していた当時の学校の様子などを懐かしい思い出話とともに伝え、現役学生たちは藤棚や大きな池などがあった、今とは違う姿の樟蔭に思いを馳せていました。

また登録文化財「樟徳館」見学ツアーなども催され、卒業生の皆さんにとって、学生時代を懐かしく思い出し、母校への思いを再確認する貴重な一日となったようです。



報告

「樟徳館」でNHKドラマの撮影が行われました！

NHK連続テレビ小説「カーネーション」(現在放送中)の撮影が7月、本学の登録文化財・樟徳館で2日間にわたって行われました。

ドラマは、世界的ファッションデザイナー、コシノ3姉妹の母で、日本のファッションデザイナーの草分けとして活躍した小篠綾子(コシノアヤコ)さんをモデルに大正から平成までを生き抜いた女性の生涯を描きます。樟徳館は昭和初期に、本学創立者の森平蔵の私邸として建築された大正モダンの香り漂う建物で、その雰囲気がドラ

マの時代設定とも重なることから、「ヒロインの祖父母の家」などの撮影場所に選ばれました。

樟徳館でのシーンにはヒロイン役の尾野真千子さんをはじめ、十朱幸代さんや宝田明さん、小林薫さん、栗山千明さんらが出演しており、数回に分けて放送されます。

また、当時の女性の洋装ファッションを写真で紹介するエンディングのコーナー「おしゃれ写真館」では、樟蔭女子専門学校の卒業アルバムの写真が使われました。



樟徳館の応接室を利用して撮影されたシーン

報告



オープニングでは、映し出される卒業アルバムの写真に思わず笑みがこぼれました。



大人気のメイクアップ・レッスン体験。皆さん、真剣な眼で話をきいています。

報告

同窓会東京支部が『60周年記念支部総会』を開催！

樟蔭同窓会東京支部の60周年記念支部総会が、6月8日(水)東京・永田町のザ・キャピトルホテル東急で開かれました。東京支部は昭和25年、当時の細川馨学長の尽力で誕生し、以来60年間、途切れることなく活動を続けてきました。

今回記念すべき総会には、関東地域に住む同窓生107名ならびに同窓会本部役員、学園教職員や元校長らが参加。なごやかな雰囲気の中、ヴァイオリン奏者、松本克巳さんによるミニコンサートや、卒業生の手作り品などがあたる福引を楽しみました。最後に全員で校歌を歌い、母校への想いをあらたにしました。



支部総会が開催されたザ・キャピトルホテル東急

活動報告

記念館がJAZZストリートのステージに！

9月18日(日)、近鉄河内小阪駅周辺の各会場で「第3回東大阪こさかJAZZストリート」(主催：小阪商店連合会)が開催され、本学からも中学校・高校の吹奏楽部や大学の吹奏楽同好会が参加しました。

本学の記念館も会場の一つとなり、国内でジャズが流行していた昭和初期の雰囲気を持つ建物の中で、プロの演奏家たちにまじり、大学の吹奏楽同好会が「となりのトトロ」「魔女の宅急便」のテーマ曲などを披露。記念館前では、中学校・高校の吹奏楽部が「イン・ザ・ムード」などを演奏し、観客を楽しませました。

またインテリアデザイン学科の学生有志が司会や受付スタッフ、ライブプランニング学科の学生有志が来街者調査スタッフとして、イベントに協力しました。



記念館の前で演奏する中学校・高校の吹奏楽部

大学・大学院・短期大学部

今年もたくさんの親子でにぎわった「SHOW IN 子育てカレッジ」



大型絵本の読み聞かせをする学生

児童学部では、学生の子育て支援に必要な力を身につけることを目的に、地域の子育てを支援する様々な活動を行っています。その一環として、今年も7月23日(土)と24日(日)、8月21日(日)に「SHOW IN 子育てカレッジ」が、関屋キャンパスで開催されました。今回は児童学部の学生たちが、様々なワークショップを企画・運営し、多くの親子連れでにぎわい、とても好評でした。

絵本をテーマにした7月の2日間は、学生たちによる「音楽劇」や「手作り人形劇」の上演のほか、「おもちゃ作り」「野菜カレー作り」など約30種類のワークショップを展開。各ワークショップの会場では、学生と子どもたちが触れ合い、子どもたちの笑顔があふれていました。

8月は「しょういん夏祭り」と題し、「金魚すくい」や「輪投げ」など夏祭り風の趣向を凝らした様々なワ

イベント報告



ークショップを設け、多くの子どもたちを楽しんでいただきました。

イベント期間中、一室に1,000冊以上の絵本を展示した「絵本ワールド」が設けられ、親子でゆっくりと絵本を楽しむ姿が見られました。また、集まった親子に学生たちが大型絵本を読み聞かせ、絵本を通して親子、学生たちの絆が深まった3日間でした。

イベント報告

「若樟祭」「くすのき祭」がはなやかに開催

今年の関屋キャンパスの若樟祭は10月22日(土)と23日(日)に開催。テーマは「たんぽぽ～ Smile up Wakagi ～」。学生たちは、生命力あふれるたんぽぽの綿毛のように、自分たちの笑顔が多くの人へ飛んでいってほしいという思いを込めました。そして、その思いを反映するかのように、若樟祭当日には大人から子どもまでのたくさんのお客さまがキャンパスを訪れ、華やかな笑顔の花を咲かせていました。



若樟祭

また、小阪キャンパスのくすのき祭は10月29日(土)と30日(日)に開催され、こちらにもたくさんのお客さまにご来場いただきました。今年のテーマは「SHOW IN CIRCUS」。誰もが楽しめるサーカスを見ているように、みんなが一体となってワクワ

ク・ドキドキできる学園祭になって欲しいとの思いが込められました。恒例の袴コンテストに加えて、学生によるファッションショーやダンスイベントなど、テーマの通り、サーカスのような華やかなイベントの数々が催され、来場者を楽しませました。

どちらのキャンパスも、大学祭を運営する学生や、クラブでの練習の成果を披露する学生、趣向を凝らした模擬店に力を入れる学生など、学生たちのいきいきとした表情と笑顔があふれる大学祭になりました。



くすのき祭



左から徳永正直学長と東大阪市立総合病院 西嶋準一院長

東大阪市立総合病院と 包括連携に関する協定締結

東大阪市立総合病院と大阪樟蔭女子大学は9月、包括連携に関する協定を結びました。連携協定は、病院と大学が密接に協力、連携することによって、医療・臨床栄養分野における知的・人的資源の交流を進め、地域社会の発展と教育・研究の進展を図ることを目的としています。また病院と大学の連携協定締結で、東大阪市地域の医

包括連携

療・臨床栄養分野のさらなる充実への期待も高まっています。連携協定の調印式は9月1日(木)、東大阪役所の市長応接室で、野田義和市長同席のもと、執り行われました。調印式では締結に至った経緯やこれまでの連携事業などについての説明の後、双方が署名して協定書を取り交わしました。

第4回田辺聖子文学館ジュニア文学賞に応募殺到

中学生・高校生を対象に表現力豊かな若い世代を育成することを目的としている「第4回田辺聖子文学館ジュニア文学賞」の募集が10月27日(木)に締め切れ、昨年を大きく上回る約20,000点の応募作品が寄せられました。特に今年は早い段階からたくさんの応募が殺到するなど、同賞の認知度は年々高まっています。

現在、著名な審査陣によって厳正な審査が行われ

ており、来年2月に受賞者の発表、3月23日(金)に表彰式と著名な作家による記念講演が行われる予定です。新たな若き才能の登場にぜひ、ご期待ください。※表彰式と記念講演の詳細は、決まり次第、下記の田辺聖子文学館ホームページにてお知らせいたします。

<http://bungakukan.osaka-shoin.ac.jp/>

ジュニア文学賞



受章

肥田美代子教授が旭日中綬章を受章



本学国文学科教授の肥田美代子先生が、平成23年度「春の叙勲」で旭日中綬章を受章されました。

肥田先生は童話作家として活躍する一方、1989年の参議院議員選挙で初当選、その後、1996年から2003年まで衆議院議員総選挙に3回連続当選されました。国会議員時代には「子どもの読書活動の推進に関する法律」や「文字・活字文化振興法」の制定に尽力。読書活動の推進を通して、表現力や思考力の豊かな若者を育成する環境作りに取り組んでこられました。

現在は「(財)文字・活字文化推進機構」や「(財)出版文化産業振興財団」の理事長など、要職を務めながら本学教授として学生の指導にあたっておられます。旭日中綬章の受章は肥田先生の数々の功績が高く評価されたものです。

受賞

大阪国際音楽コンクールで、 児童学科の学生が大活躍！



●● ●●さん

国内外から多くの参加者が集まる「大阪国際音楽コンクール」のアマチュア部門シニアコース(18歳以上になってから楽器を習い始めた人が出場できる部門)で、児童学科4回生の●●●●さんが5位に入賞しました。今年のシニアコースのレベルは大変高いといわれる中、他にも多くの児童学科の学生がファイナルに出場し、本学のピアノ教育の優秀さを示しました。

アマチュア部門 シニアコース

- 5位
- ●● (児童学科4回生)
- ファイナル出場
- ●● (児童学科2回生)
- ●● (児童学科2回生)
- ●● (児童学科4回生)

イベント報告

若葉祭が開催されました！

「若葉祭」が今年も盛大に実施されました。

中学校の全校レクリエーション(全レク)と高校体育祭は台風の影響で1日延期となり、9月22日(木)、雨が残る中での開催。

全レクは今年から赤白対抗形式で、手作りの旗で応援合戦が繰り広げられ、最後には白組が優勝を飾りました。高校体育祭はクラス対抗リレーや、みんなでパネル、青春の躍動などを実施。総合優勝は3年が花組、2年が夏組、1年が星組。青春の躍動は花組が1位になりました。

文化祭は10月1日(土)と2日(日)に開催され、今年のテーマは「宝箱、開けちゃう? 開けちゃう!!」。

1日目は生徒だけの会館発表。ダンスやミュージカルなど、すばらしい発表で、一生懸命練習した成果を披露しました。2日目は家族や友人たちを招待しての開催です。模擬店や教室での展示・クラブ発表など、各会場とも大盛況で、約2,000人のお客様に来校していただきました。



特別講座

劇団四季の俳優によるダンスの特別講座

中学校「身体表現コース」の夏季特別講座として、劇団四季の俳優によるダンスレッスンが7月25日(月)に行われました。

教えていただいたのは大阪四季劇場で上演していた「アイダ」の1シーンで演じられているダン



ス。ダンスレッスンに先立って、生徒たちは「アイダ」について勉強し、実際に劇場での鑑賞も行いました。ダンスレッスンでは、ダンスの最後の決めポーズを自分で考えて表現するよう指示。生徒たちは最初、大人っぽい振り付けにとまどいながらも、中学生らしい可愛い決めポーズでせいっぱい自己を表現していました。

今回、教えていただいた俳優の中には樟蔭高校卒業生の濱田恵里子さん(前号166号の『こもれびの窓』で紹介)もおられ、身体表現コースの生徒にとって、プロの方から直接指導を受ける貴重な経験となりました。

活動報告

樟蔭高校生が薬師寺参道で ハーブ植え

高校「健康栄養コース」の1年生が、7月27日(水)、奈良市西ノ京町の薬師寺参道で、バジルやパセリなど約40種類のハーブの植え付けを行いました。

同コースは今春開設されたばかり。薬師寺参道でのハーブの植え付けは「食」と「健康」について学ぶ授業の一環として、健康栄養コースのアドバイザーである田中愛子先生と、薬師寺門前にあるレストラン「アムリット」の協力を得て実現したものです。

薬師寺は天武天皇が皇后の病氣治療を祈願して建立を発願された寺で、料理のスパイスとしてだけでなく薬草としても使われるハーブとも通じるものがあります。生徒たちは、土の中から飛び出してくる苦手な虫たちと格闘しながら、ハーブ500株を植え付け、新たな視点から「食」と「健康」を考える機会になったのではないのでしょうか。



ハーブの苗をひとつひとつ丁寧に植えました。

活動報告

「第16回全日本高校・大学生 書道展」で6名が入賞！

学生書道のグランプリとして知られる「第16回全日本高校・大学生書道展」(公益社団法人日本書芸院、読売新聞社主催)の審査が8月3日(水)、大阪市中央区のマイドームおおさかで行われました。応募作品10,774点の中から、最高賞の書道展大賞(51点)のほか同展賞(338点)、優秀賞(731点)などが選ばれ、本学学生6名の作品が入賞しました。

2年連続受賞!
書道展大賞の●●さん(左)と書道展賞の●●さん(右)

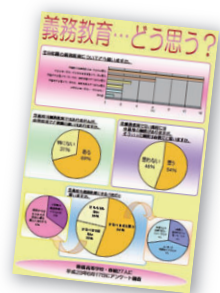
受賞者

- 書道展大賞
- ●● (健康栄養学科2回生)
- 書道展賞
- ●● (国文学科2回生) ●● ●● (国文学科4回生) ●● ●● (国文学科3回生)
- ●● (国文学科4回生) ●● ●● (国文学科4回生)
- 優秀賞

「大阪府統計グラフコンクール」で知事賞入選

統計の表現技術の向上などを目的とした「第53回大阪府統計グラフコンクール」(大阪府主催)で、●●●●●さん(高校1年春組)の作品「義務教育…どう思う?」が、パソコン統計グラフの部で知事賞入選作品に選ばれました。今回、このコンクールには情報の授業を通じて参加し、昨年の中学生の受賞に引き続き、樟蔭は2年連続入賞しました。

コンクールは府内に在住、通学する小中高校生のほか、学生や一般の人が対象で、応募総数は1,246点。●●さんの作品は義務教育についてのアンケート調査の結果を棒グラフや円グラフで分かりやすく表現したことが評価されました。



受賞

「ひとことメッセージ～男女共同参画社会に向けて～」に入選!

東大阪市立男女共同参画センター主催で男女共同参画社会実現に向けて実施した「ひとことメッセージ」において、樟蔭高校生の作品が高校生の部で優秀作と佳作に選ばれました。

優秀作は●●●●●さん(高校3年春組)の「一番身近な差別。男のくせに、女のくせに。でもその前に、みんな同じ人間。」。また佳作は●●●●●さん(3年雪組)の「男女平等社会を作るのは、不平等な社会を生きた私たち。」でした。咲野さんらの作品は、6月25日(土)にイコーラムホールで行われた「男女共同参画週間 記念のつどい」で発表され、たくさんの方に男女共同参画社会実現の大切さをアピールしました。



発表する●●●さん(右)と●●●さん(左)

受賞

幼稚園

幼稚園が創立60周年 待望の「園歌」が誕生!

今年、創立60周年を迎えた大阪樟蔭女子大学附属幼稚園に待望の「園歌」が誕生し、10月8日(土)の運動会で保護者に初めて披露されました。

幼稚園は昭和26年4月、良好な環境のもとで保育教育を実現するとともに、大学児童学科の教員や学生の保育研究、実習を行うことを目的に開園しました。以来、幼稚園からは約4,000人の卒園生たちが巣立っています。

園歌の誕生には職員と子どもたちのドラマがありました。

きっかけは昨年12月の朝の集い。先生が園児たちに、60歳の誕生日を迎える幼稚園へのプレゼントとして「園歌」を作ることを提案しました。園児たちも興味を持ったので、そこから園歌作りが始まりました。

まず各クラスで担任が「幼稚園ってどんなところ? どんなことして遊んでる?」とたずね、子どもたちの幼稚園へのイメージを聞き出しました。子ども



たちからは「楽しいところ」「友だちの顔を見たらうれしくなる」などさまざまな答えが返ってきました。

このあと、先生たちが子どもたちの言葉を持ち寄り、歌詞作りがスタート。1番と2番に子どもたちの思い、3番に先生たちの思いを入れた歌詞ができあがりました。

報告

樟蔭幼稚園園歌

作詞 樟蔭幼稚園園児と先生

1. みどりのおにわて あそぼうよ
かけっこ どんご おにごっこ
げんきなこえが きこえてる
みんなだいすき しょういんようちえん
2. ともだちたくさん つくろうよ
ばくち わたしと せんせいと
いこにこえがあ あふれてる
みんなだいすき しょういんようちえん
3. そらにむかって のびようよ
ゆっくり ああきく まっすぐに
やさしいところ そだってる
みんなだいすき しょういんようちえん

作曲は大学児童学部 元教授の桶谷弘美先生に依頼し、今年5月、ついに「園歌」が完成。桶谷先生の曲は親しみやすく、子どもたちもすぐに歌えるようになりました。

また11月9日(水)、創立60周年のイベントが催され、関係者一同、幼稚園のさらなる発展を期しました。

BOOK Info.

書籍紹介

中学校・高校 船田智史 教諭 他 共著
「基礎物理学 ドリルと演習シリーズ」
(全285頁／2011.4.20. 電気書院)

この書籍は、主に理科学系学問の基礎を学習したい大学生やより内容を深めたいという高校生を対象に編集されています。ドリル形式ですので、自学自習にばっちりです。



大学 児童学科 菅 正隆 教授 他 共著
「子どもにウケる! とっておき英語クイズ70」
(全159頁／2011.8.20. フォーラム・A)

「インドのマクドナルドでは牛肉も豚肉も使っていません。何の肉を使っているでしょう」など異文化や英語の話題が満載。英語を学び、教える際に自信がつく一冊です。



Information



第5回 英語落語発表会

今年も生き生きとした学生の発表と、本学の非常勤講師であるプロの落語家 桂かい枝師、桂あさ吉師、ゲストの桂三輝師の英語落語をお楽しみいただきます。

日 時:2012年2月11日(土・祝) 13:00～15:30

場 所:小阪キャンパス 円形ホール 入場料:無料

お申し込み締切:2012年2月8日(水)

お申し込み方法:本学ホームページまたはハガキ・FAXにて①「英語落語」観覧希望 ②氏名(ふりがな) ③住所 ④電話番号 を必ずご記入の上、下記までお申し込みください。

お問い合わせ:〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 国際英語学科事務センター
TEL:06-6723-8316 FAX:06-6723-8348 URL:http://www.osaka-shoin.ac.jp



卒業制作展・卒業論文発表会

下記日程で行いますので、ぜひご高覧ください。

被服学科(化粧学分野含む)卒業制作展・卒業論文発表会

◆卒業制作展(予定)

日 時:2012年1月19日(木)～28日(土) 9:30～16:00

場 所:小阪キャンパス 記念館2F(281教室)、8号棟地下(美容実習室)

◆卒業論文発表会(予定)

日 時:2012年2月7日(火)・8日(水) 9:00～

場 所:小阪キャンパス 円形ホール

※詳細はFIC(ファッション・インフォメーション・センター、06-6723-8227)までお問い合わせ下さい。

インテリアデザイン学科 卒業制作展

◆学内卒業制作展

日 時:2012年1月19日(木)～28日(土) 9:30～16:00

場 所:小阪キャンパス インテリアデザインラボラトリー(記念館1F)

◆学外卒業制作展

日 時:2012年2月7日(火)～13日(月) 10:00～18:00

場 所:堂島アバンザビル1Fエントランスホール(地下鉄四つ橋線西梅田駅より徒歩2分)

国文学科 書道コース生による『卒業書作展』

日 時:2012年2月23日(木)～27日(月) 10:00～17:00

場 所:小阪キャンパス 記念館2F(281教室)



国文学科OGによる「樟墨展」

日 時:11月23日(水・祝)～27日(日) 10:00～16:00

場 所:小阪キャンパス 記念館2F(281教室) 入場料:無料

お問い合わせ:大学 国文学科事務センター TEL:06-6723-8292



大学 吹奏楽同好会 『クリスマスコンサート』

日 時:12月26日(月) 18時～(約30分程度)

場 所:小阪キャンパス 入場料:無料

お問い合わせ:大学 小阪キャンパス 学生支援課 TEL:06-6723-8279

大学 能楽部 『関大能』

日 時:12月11日(日) 12時30分開場、13時開演(予定)

場 所:山本能楽堂(大阪市中央区徳井町1-3-6) TEL:06-6943-9454 入場料:無料

※本学能楽部が、関西大学能楽部の公演に出演します。

お問い合わせ:大学 小阪キャンパス 学生支援課 TEL:06-6723-8279

中学校・高校

演劇部

演劇部は高校生と中学生がいっしょに活動しています。
今回は高校の部長、●●●さん(3年雪組)と中学校の部長、
▲▲▲さん(3年李組)にインタビューしました。

演劇部員は現在、高校生4名、中学生5名。普段は週4回、公演本番の直前はほぼ毎日、練習をしています。練習には腹筋・背筋運動や発声トレーニング、早口言葉など基礎的な訓練のほか、台本を使ったセリフのやりとり、パントマイムなども取り入れています。10月の文化祭では、●●●さんのオリジナル脚本作品「A Sinful Queen」を披露しました。

Q 演劇部の現在の主な活動は？ また中学生と高校生がどんなふうに同じ舞台上活動していますか？

A ●●●さん(以下、●●●) 秋の文化祭、春の新入生向けの公演など本番は年2、3回です。今年の文化祭で上演した「A Sinful Queen」は20分くらいの短い作品で、中世の西洋を舞台に独裁的な女王に家来たちが反乱を起こすというストーリー。樟蔭の演劇部は伝統的に既成台本よりオリジナル脚本の作品が多いのが特徴です。

▲▲▲さん(以下、▲▲▲) ふだんは先輩後輩ですが、劇の中に入ると中学生も高校生もいっ

しょです。舞台では立場が逆になったりすることもあります(笑)。

Q お二人が演劇部に入ったきっかけは？
A ●●● もともと舞台芸術に興味があったので、最初は裏方の仕事をしたいと思って入りました。

▲▲▲ 私は小学6年生の時に母から「クラブ活動は1人でできないものにしたら」と勧められて、思い立ったのが演劇でした。

Q 演劇の魅力、そしてお二人が一番心に残っている役を教えてください。

A ●●● 演劇の一番の魅力は、自分ではない誰かになることができることです。今までで一番印象に残っているのは、サスペンス物の殺人犯役。最後の独白シーンが長くてとてもしんどかったですね。時間にして4、5分もあり、セリフを覚えることよりも、感情込めるのが難しかったです。

▲▲▲ 演劇の魅力は、やはり非現実的なことを体験できることです。そして自分が作ってみたい世界を再現できることだと思います。中学生なので、まだ出演したのは2作品だけです



左から ●●●さんと▲▲▲さん

が、今年の春の公演で演じた非行少女の役が、思い出に残りました。天使が非行少女を更生させようとするけれども、うまくいかないとあるストーリーで、普段の私は他人に言い返したりできるような性格ではないのですが、芝居の中では天使に思い切り言い返したりして、楽しかったです。

Q 演劇部の雰囲気、そして今後の目標について聞かせてください。

A ●●● 部員はみんな、仲が良いので、みんなでおしゃべりしている時が一番楽しいです。でも、おしゃべりしているうち、いきなりアドリブで芝居が始まったりもします(笑)。ただ部員が少ないので、学外の大会に出ることができないのが残念です。

▲▲▲ 私も、もっといろんな芝居をするためにも、とりあえずもっと部員を増やしたいと思っています。

●●●さんは、来春卒業しますが「大学でも演劇サークルに入りたい」と話してくれました。●●●さんたち先輩の跡を継ぎ、▲▲▲さんたち後輩が将来の演劇部を担っていきます。

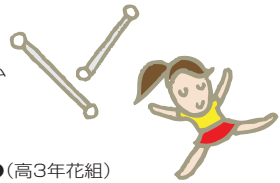
クラブ活動報告

中学校・高等学校

■バントフリング部

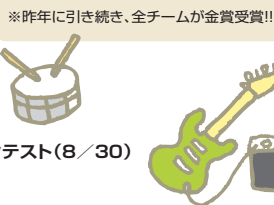
JAPAN CUP(9/3~4)

- ◆優勝(大会2連覇) 中学校ボンボンチーム
- ◆優勝(大会2連覇) 高校ボンボンチーム
- ◆第2位 中学校バントフリング部
- ◆第3位 高校バントフリング部
- ◆個人スポーツダンス部門優勝 ●●● ●●●(高3年花組)



第21回マーチングバンド・バントフリング大阪府大会(9/19)

- ◆金賞 中学校ボンボンチーム
- ◆金賞 中学校バントフリング部
- ◆金賞 高校ボンボンチーム
- ◆金賞 高校バントフリング部



※昨年に引き続き、全チームが金賞受賞!!

■軽音楽部

軽音連サマーライブ2011 MixBandコンテスト(8/30)

- ◆グランプリ賞 ●●●●●(高2年春組)

■美術部

第60回 大阪私学美術展(7/26~31)

- ◆学校団体優秀賞 高校美術部
- ◆市長賞 ●●●●(高3年月組)
- ◆来年度、芸文祭ポスター制作 ●●● ●●●(高2年冬組)
- ◆優秀賞
- ●●●(高1年花組) ●●● ●●●(高2年冬組) ●●● ●●●(高2年冬組)
- ●●●(高2年月組) ●●● ●●●(高2年月組) ●●● ●●●(高3年月組)

※来年度、全国高等学校総合文化祭大阪府代表出品校に決定。14年連続!!

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| ●●● ●●●(高2年星組) | ●●●●●●(高3年雪組) | ●●● ●●●(高3年夏組) |
| ◆奨励賞 | | |
| ●●● ●●●(高1年冬組) | ●●● ●●●(高1年花組) | ●●●●●●(高1年空組) |
| ●●● ●●●(高2年星組) | ●●● ●●●(高2年冬組) | ●●● ●●●(高2年月組) |
| ●●● ●●●(高2年月組) | ●●● ●●●(高3年夏組) | ●●● ●●●(中1年李組) |
| ●●● ●●●(中2年桃組) | ●●●●●●(中2年桃組) | ●●● ●●●(中2年李組) |
| ●●● ●●●(中2年李組) | 中学校美術部共同作品 | |

■工芸部

第60回 大阪私学美術展(7/26~31)

- ◆大阪私学美術・工芸教育研究会 会長賞
- ●●●(高3年花組)
- ◆優秀賞
- ●●●(高1年冬組) ●●● ●●●(高2年月組) ●●● ●●●(高3年冬組)
- ◆奨励賞
- ●●●(高1年冬組) ●●● ●●●(高2年月組) ●●● ●●●(高2年夏組)



「工芸甲子園2011」第3回 全国高校生クリエイティブクラフト展

- ◆(財)京都伝統工芸産業支援センター理事長賞
- ●●●(高3年花組)

大 学

■卓球部

春季関西学生卓球リーグ戦(5/7~8、12~13、14~15)

- ◆3部校 団体優勝
- 春季関西学生卓球リーグ戦 入替戦(5/22)
- ◆2部 昇格決定



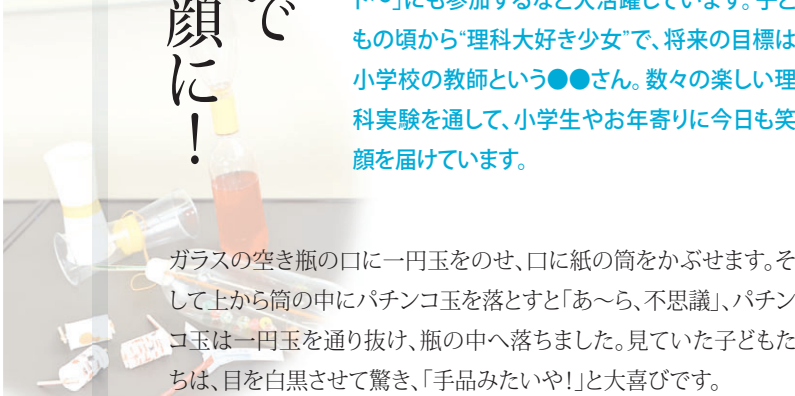
おもしろ理科実験で
子どもたちを笑顔に！

児童学部児童学科3回生

●●●●さん

いきいき・キャンパスライフ・プロジェクト「SER12:わくわく理科実験」代表者兼「くっく隊〜樟蔭食育プロジェクト〜」メンバー

学生自身が企画・運営するプロジェクトを支援するため、本学が2007年から実施している「いきいき・キャンパスライフ・プロジェクト(いきキャン)」。児童学科3回生の●●●●さんはプロジェクトの一つに採用された「SER12:わくわく理科実験」(以下、SER※)の代表者を務める一方、別のプロジェクト「くっく隊〜樟蔭食育プロジェクト〜」にも参加するなど大活躍しています。子どもの頃から「理科大好き少女」で、将来の目標は小学校の教師という●●●さん。数々の楽しい理科実験を通して、小学生やお年寄りに今日も笑顔を届けています。



ガラスの空き瓶の口に一元玉をのせ、口に紙の筒をかぶせます。そして上から筒の中にパチンコ玉を落とすと「あ〜ら、不思議」、パチンコ玉は一元玉を通り抜け、瓶の中へ落ちました。見ていた子どもたちは、目を白黒させて驚き、「手品みたいや!」と大喜びです。

子どもたちの「理科離れ」が叫ばれていますが、「SER」は楽しい実験を実演することで、理科に対する興味を持ってもらおうというプロジェクト。今年度の「いきキャン」に採用され、●●●さんたちは今春から小学校などを訪れ、本格的に活動を始めました。

きっかけは昨年8月、佐藤榮一教授(理科教育)が実施した親子を対象にした理科実験を、●●●さんたちが手伝ったことでした。子どもたちが実験を心から楽しんでいる姿を見て、「私も実験で、子どもたちを喜ばせられるようになりたい」と思い立ちました。

小学生の時から理科が大好き。夏休みの自由研究では「ヒマワリの育ち方」「モンシロチョウが好む花」などのテーマに取り組み、小学2年から6年生まで県知事賞や優秀賞などを連続受賞したといいます。



4月に開催した「実験を体験して、君も科学者になろう」イベントの様子



Profile ●●●●●● 奈良県橿原市出身。奈良県立高田高校卒業。児童学科3回生。

プロジェクトのメンバーは現在、15名。一つの実験をマスターするためには約1か月の練習が必要ですが、今ではレパートリーも15種類以上に増えたといいます。

時には、失敗もありました。「塩水にモノを浮かべる」実験では、塩水が十分混ざっていなかったため、浮くはずのタマゴが沈んでしまい、メンバー全員でオロオロしたことも。

小学校の頃の担任の先生に憧れ、小学校の教師になるのが夢。少しでも早く教育現場を体験したいとの思いから、大学1回生の時、母校の小学校に「ボランティアをさせてください」と自分から電話をかけ、先生の補助をするボランティアを続けています。3回生の9月からは、奈良県が教員を目指す大学生を対象に実施しているディア・ティーチャー・プログラム(教師養成塾)の実習生として、小学校に通っています。

「SER」の活動を始めて半年余り。●●●さんは「実験で、子どもたちが喜んだり、驚いたりしてくれるとやりがいを感じます」と話します。最近では、この活動が地域の方の目に止まり、自治会のイベントや小学校の学童保育から実演を依頼されることも増えてきました。11月23日には「青少年のための科学の祭典」に参加し、ダンボールや傘袋など身近なもので作る、おもしろい玩具の実験を披露する予定です。

「私が小学生の時は理科といえば(教科書を覚える)『勉強』というイメージでしたが、自分で実験してみないと教科書通りになるかどうかは分かりません。自分で実験して、自分の目で見て確認する『楽しさ』を知ってもらいたいです」

食育プロジェクト「くっく隊」のメンバーとしても活躍し、多忙をきわめる●●●さん。夢を実現させるため、閑屋キャンパスで充実した日々を送っています。